適切な種子予措と環境衛生を!

近年、不適切な種子予措等が多く見られます。
それにより、**ばか苗病が多発傾向**にあります。
本病の防除には**適切な種子消毒・浸種・催芽**と
作業場所の**環境衛生の徹底**が重要です。

対策1 適切な種子消毒・浸種・催芽

～消毒効果を維持するために～

- 種子消毒、浸種は必ず**屋内**で行い、開始時に**お湯で水温が15℃になるように調整**する。また、**水温10～15℃**を確保できるように消毒、浸種の開始は早くとも**4月上旬**からとする。
- 複数の品種、消毒方法の異なる種子を同じ容器で浸種、催芽しない。
- 浸種の水量は種子**1kg当たり3.5ℓ（50kg当たり175ℓ）**とする。
- 浸種期間は水温10℃で6日間程度とし、水交換は**2～3回**とする。薬剤吹付・塗沫種子では**浸種開始後2日間**は水を交換しない。
- 催芽温度は30～32℃とする。

対策2 環境衛生の徹底

～周辺環境からの伝染を防ぐために～

- ばか苗病の発生したほ場の稲ワラや籾殻、粉塵等は伝染源になるため、種子予措を行う作業場所やその周辺を**十分清掃**する。
- 消毒前の種子と消毒後の種子は**同じパレットやシート等に置かない**。
- 浸種時と催芽時は**容器に蓋**をする。
- 浸種、催芽で使用する機器や容器は使用前及び品種や消毒方法が変わる時に**十分洗浄**する。

編集：秋田県農業試験場・秋田県病害虫防除所　発行：秋田県植物防疫協会・秋田県産米改良協会